



町村自治

7月 2017 平成 29年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 小笠原 靖介 ● 印刷所 長尾印刷(株)
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail ack@aomori-chousonkai.jp



9月17日(日)開催!「ほたての祭典」にお越してください!!

毎年9月中旬に開催される当町秋の最大イベントが、「ほたての祭典」です。養殖ホタテの生産量日本一を誇り「ホタテの町」として知られる当町ならではのホタテ三昧の1日が楽しめます。毎年、町内外から多くの方が訪れ、去年は約14,000人と大盛況でした。おいしいホタテと楽しいイベントが盛りだくさん!ぜひお越してください。

【No. 1215】 「「ほたての祭典」イベント「ほたて釣りコーナー」での1コマ 平内町」



特別区全国連携プロジェクト

- 本会臨時総会..... 2
- 平成30年度重点施策提案に係る... 4
国会議員説明会等
- 役員合同会議ほか..... 8
- まちづくりへの挑戦 階上町..... 12
- いまが旬!..... 14
- 随想 船橋平内町長..... 18



青森県・道庁デザインেশョンキャンペーン
マスコットキャラクター「いくべえ」®

青森県町村会臨時総会

会長に関和典西目屋村長を選出

副会長は東條鱒ヶ沢町長、浜谷階上町長



就任あいさつをする関新会長と東條、浜谷両副会長

本会は六月十四日、青森市の県共同ビルで臨時総会を開催し、任期満了に伴う役員の変更を行った。会長に関和典西目屋村長を選出したのははじめ、新たに副会長二名、監事三名を選出し、本会の新たな執行体制が決定した。理事には郡町村会長を充てることとなる。



新たな執行体制を決定した臨時総会

臨時総会には、吉田会長はじめ二十九町村長(代理含む)が出席した。吉田会長が議長を務め議事に入り、任期満了に伴う役員の変更を行い、会長に関和典西目屋村長、副会長に東條昭彦鱒ヶ沢町長、浜谷豊美階上町長、監事に船橋茂久平内町長、野坂充横浜町長、樋口秀視佐井村長を選出し、新役員が決定した。任期は平成二十九年六月十九日から二年間。役員選任後、就任あいさつした関新会長は、「これまで

の役員の皆様方が作り上げてきた町村会の確かな形と流れをしっかりと引継ぎながら、これから新しい時代に対応できる町村会とするため頑張つて参りたい」と抱負を述べた。

総務厚生委員長に

三浦五戸町長

産業経済委員長に

鈴木田舎館村長

本会は臨時総会終了後、青森市のアップルパレス青森で、

総務厚生、産業経済両委員会を開催し、任期満了に伴う正副委員長の選任を行った。

総務厚生委員会では、委員長に三浦正名五戸町長を再任したほか、副委員長に平田博幸藤崎町長、三村正太郎おいらせ町長をそれぞれ選出した。

また、産業経済委員会では、委員長に鈴木孝雄田舎館村長を再任したほか、副委員長に山田年伸大鰐町長、金澤満春大間町長を選出

臨時総会で選任された役員

会長

関

和典
(西目屋村長)



監事

船橋

茂久
(平内町長)



副会長

東條

昭彦
(鱒ヶ沢町長)



野坂

充
(横浜町長)



浜谷

豊美
(階上町長)



樋口

秀視
(佐井村長)



理事

久慈 修一
(蓬田村長)

成田 誠
(板柳町長)

山田 年伸
(大鰐町長)

三村 正太郎
(おいらせ町長)

金澤 満春
(大間町長)

三浦 正名
(五戸町長)

青森県町村会政務調査委員会 (平成29年6月14日現在)

総務厚生委員会 (14名)

委員長	三浦 正名	(五戸町長)
副委員長	平田 博幸	(藤崎町長)
〃	三村 正太郎	(おいらせ町長)
委員	阿部 義治	(今別町長)
〃	山崎 結子	(外ヶ浜町長)
〃	吉田 満	(深浦町長)
〃	関 和典	(西目屋村長)
〃	成田 誠	(板柳町長)
〃	吉田 豊	(六戸町長)
〃	野坂 充	(横浜町長)
〃	越善 靖夫	(東通村長)
〃	樋口 秀視	(佐井村長)
〃	浜谷 豊美	(階上町長)
〃	櫻井 雅洋	(新郷村長)

産業経済委員会 (16名)

委員長	鈴木 孝雄	(田舎館村長)
副委員長	山田 年伸	(大鰐町長)
〃	金澤 満春	(大間町長)
委員	船橋 茂久	(平内町長)
〃	久慈 修一	(蓬田村長)
〃	東條 昭彦	(鱒ヶ沢町長)
〃	相川 正光	(鶴田町長)
〃	濱館 豊光	(中泊町長)
〃	中谷 純逸	(野辺地町長)
〃	小又 勉	(七戸町長)
〃	蛭名 鉦治	(東北町長)
〃	戸田 衛	(六ヶ所村長)
〃	富岡 宏	(風間浦村長)
〃	松尾 和彦	(三戸町長)
〃	山本 晴美	(田子町長)
〃	工藤 祐直	(南部町長)

した。(両委員会の構成は名簿のとおり)

また、総務厚生委員会では、県総務部市町村課の丸尾課長から町村における行財政的課題等、県健康福祉部の菊地部長から部主要施策等について、また産業経済委員会では、県農林水産部の油川部長、県観光国際戦略局の秋田局長からそれぞれ部局主要施策等について説明があり、意見交換を行った。

管理者に

関西目屋村長を選任

県市町村総合事務組合
議会臨時会

本会に事務局を置く県市町村総合事務組合は、本会臨時総会終了後、議会臨時会を開催し、吉田管理者はじめ議員等八町村長が出席した。

臨時会では、任期満了に伴う正・副管理者選挙を行い、管理者に関西目屋村長、副管理者に浜谷階上町長を新たに選任したほか、監査委員に金澤大間町長を再任した。また、報告事項一件を審議し、原案通り承認した。

地方財政基盤の充実・強化等を訴える

平成30年度重点施策提案に係る国会議員説明会

県・市長会・町村会三者合同で



吉田会長が地方創生の推進、地方財政基盤の充実・強化等を訴える

本会は、県、市長会の三者合同により、六月四日、青森市の青森国際ホテルで平成三十年重点施策提案に係る国会議員説明会を開催した。
本会からは吉田会長、金澤副会長をはじめ役員町村長が出席し、県選出国会議員に対し、地方創生の推進や地方財政基盤の充実・強化など七項目の重点施策を説明し、実現へ協力を求めた。



説明会には約130人が出席

説明会には、県選出国会議員の津島淳衆議院議員、大島理森衆議院議員、木村太郎衆議院議員、高橋千鶴子衆議院議員、升田世喜男衆議院議員、田名部匡代参議院議員ほか代理として国会議員秘書が出席した。

また、本会からは吉田会長、金澤副会長をはじめ役員町村長十二人、県からは三村知事ほか副知事と関係部局長、県市長会からは小野寺会長（青

森市長）ほか各市長（代理含む）など、約百三十人が出席した。

説明会では、三村知事が主催者を代表しあいさつした後、県、市長会、本会からそれぞれ重点施策が説明され、その後、意見交換を行った。

本会からは、はじめに吉田会長が「町村は急速な少子高齢化の進行や人口減少等、極めて厳しい状況となっている。人口減少の克服と地域活性化

に向けて地方創生をさらに推進していくので、町村が取り組む支援についてご支援願うとともに、財政基盤の充実・強化、地域医療の確保・充実等も重要課題であり特段のご配慮をお願いしたい。また、地方が国を大きく上回る行財政改革を実施し、相当努力をして積み上げた基金の増加をもって地方財政に余裕があるかのような議論は断

平成30年度地方財政対策に関する要請

現在、政府において、地方における基金残高の増加をもって、地方財政計画の適正化等を速やかに行うべきとの議論が行われている。

これに対して、地方六団体からの要請にもあったとおり、地方における基金は財政運営の年度間調整に必要なものであり、不測の事態により生ずる財源不足については、基金の取崩し等により対応を図るほかないことを十分踏まえるべきであり、また、団体毎の実情や基金の状況は一様ではなく、全国総額の増加をもって地方財政に余裕があるかのような議論は容認できないものである。

青森県分を例にとると、平成17年度と平成27年度の基金残高の比較で、総額は微増となっているものの、財政調整基金と減債基金との合計では大幅減となっており、その他特定目的基金は増加となっているものの、その大宗は国の政策に基づくものとなっている。

県及び市内市町村は、懸命に行財政改革に取組みながら基金の積立て・残高の確保を図りつつ、各団体の実情に沿った行政サービスを担えるよう財政運営を行っているところであり、以下のことについて強く求めるものである。

地方の基金残高の全国総額の増加を理由として、地方交付税総額の削減を行わないこと。

そのうえで、地方の安定的な財政運営に必要な一般財源総額を十分に確保すること。

関係省庁等に 重点施策提案活動 地方財政対策に 関する要請も実施

本会は、県、市長会の三者合同により六月八日、東京都内で、自由民主党をはじめ内閣官房、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省並びに県選出国會議員に対し、平成三十年度の重点施策提案を行った。

本会からは吉田会長が参加し、自由民主党の二階幹事長、細田総務会長のほか、関係省庁幹部に面談のうえ、本県の実情を強く訴え施策の実現を求めた。

また、併せて財務省等に対し、平成三十年度地方財政対策及び「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」による補助率等の高上げ措置継続に関する要望活動を行った。



細田自由民主党総務会長へ要望

本会重点施策の説明事項

1. 地方創生の推進について(3団体共通要望項目)
2. 地方財政基盤の充実・強化について(3団体共通要望項目)
3. 医療・保健・福祉施策の強力な推進について
 - (1) 地域医療の確保・充実について
 - (2) 総合的な子育て支援及び国民健康保険制度の安定運営について
4. 農林水産業の振興について
 - (1) 農業の振興について
 - (2) 林業・水産業の振興について
5. 社会基盤の整備促進について
 - (1) 道路の整備等について
 - (2) 防災・減災・老朽化対策の強化について
 - (3) 治水対策について
6. 観光客誘客対策の推進について
7. 環境保全対策の推進について



県選出国會議員6人が出席

じて容認できないものであり、交付税を含め地方に必要な財源を必ずや確保するようお願いしたい」とあいさつを述べ、引き続き本会事務局から、地方創生の推進や地方財政基盤の充実・強化など、七項目の重点施策を説明した。(本会重点施策の説明項目は左記のとおり)。

また、県から、新たな課題に対応できる消費者行政推進のための交付金制度の見直しなど十八項目、市長会から、農業分野における外国人技能実習制度の規制緩和など十二項目の重点施策を説明した。

医療・保健・福祉・子育て支援 施策の推進など11項目を提言

将来の労働力確保に向けた取組、人口減少社会に対応した 雇用拡大について意見交換

平成29年度市町村長会議（町村の部）



会議は、県側から三村知事ほか関係部局長、各地域県民局長、本会から吉田会長をはじめ県内全三十町村長（代理含む）と各郡町村会事務局長等が出席した。

主催者の三村知事のあいさつに続き、吉田会長が県に対する提言を述べ、県担当部局からは、当日回答の項目に対する所見が述べられた。（概要は後述のとおり。）

県は、六月九日、青森市の青森国際ホテルで平成二十九年度市町村長会議（町村の部）を開催し、本会から吉田会長をはじめ各町村長が出席し、県に対し、医療・保健・福祉・子育て支援施策の推進など十一項目の提言事項を説明し、実現を強く訴えた。

次に、県・町村共通の政策課題として、県提出の「将来の労働力確保に向けた取組について」、及び本会提出の「人口減少社会に対応した地域の魅力ある仕事づくり・雇用拡大について」をテーマに活発な議論が行われた。

本会提言に対する県所見

（会議当日回答分、一部抜粋。項目番号は左記の提言項目番号に符合。）

5. 医療・保健・福祉・子育て支援施策の推進について

（2）地域医療対策について
「良医を育むブランドデザイン」に基づき、医師不足の解消と医師の県内定着を図る各種施策に取り組んでいる。医師修学資金の特別枠貸与者も地域医療の現場で勤務し始めており、今後多くの卒業生の活躍が期待される。引き続き、若手医師が地域医療を

支える医師としてキャリアを形成し、活躍できるよう取り組んでいく。しかしながら、医師数の増加という根本策の効果が上がらざるまでにはなお時間を要する。県としては、今後とも弘前大学をはじめ、関係機関と協議をしながら、市町村の努力に応えるべく地域医療の確保・充実に努める。

（4）国民健康保険制度の安定運営について
国民健康保険市町村等連携会議で合意した算定ルールに基づき算定する。激変緩和の基準、事務の効率化については、国の国保基盤強化協議会等の議論の状況を踏まえ、同会議において、市町村と十分協議しながら検討していく。

6. 雇用及び移住・定住者促進施策の推進について

首都圏移住相談窓口「あおもり暮らしサポートセンター」の運営や、首都圏セミナーの開催及び、県・市町村合同の移住パンフレットの作成など、移住希望者に向けた相談対応や情報発信、また、移住希望者が実際に移住するまでのそれぞれの段階に応じた取り組み等を行っていくとともに、引き続き市町村や民間団体と連携して地域のサポート体制の整備等を行う。

また、若年層の県内就職促進については、魅力ある質の高い雇用の場をつくるため、産業立地センターの見直しや、生徒はもちろん保護者に対しても県内企業の魅力について



吉田会長が本会重要施策について提言

情報発信の強化を図り、これ
からも幅広い若い人の雇用の
創出、拡大に向けて取り組む。

7. 農林水産業の振興について

(1) 農業の持続的発展・競
争力強化について

②グローバル化に対応した
農業対策について＝生産基盤
の強化のほか、青天の霹靂を
はじめとした県産品のブラン
ド化や若手農業トップラン
ナーの育成など県独自の対策
を強化していく。食の安全・
安心の確保については、輸出
拡大や他産地の差別化を図る
ための認証GAPの取得拡大
に取り組みほか、高品質で安
心安全な農産物の生産基盤で
ある土づくりを着実に進め、
本県農業の競争力を高めてい
く。

8. 社会基盤の整備促進等に
ついて

(1) 防災・減災・老朽化対
策について＝防災・減災対策

を推進するための財源確保に
ついては、緊急防災、減災事
業債の恒久化や対象事業の拡
大などについて、十分な予算
が安定的かつ継続的に確保さ
れるよう国に働きかけていく。
9. 観光客誘客対策の強化に
ついて＝北海道新幹線開業に
より、本県と道南地域の時間
が大幅に短縮されており、ま
た、近年増加傾向にある海外
からのチャーター便も活用し
ながら、新幹線をはじめ、海
路・空路の多様な交通機関を
組み合わせた立体観光を引き
続き推進する。



三村知事が県と町村とのより一層の連携を
呼びかける

平成29年度市町村長会議（町村の部）提言項目

- 1 地方創生の推進について
- 2 町村財政基盤の充実強化について
- 3 電子行政の推進について
- 4 海岸漂着物の廃棄処理対策について
- 5 医療・保健・福祉・子育て支援施策の推
進について
- (1) 総合的な子育て支援対策の推進につ
いて
- (2) 地域医療対策について
- (3) 弘前大学医師修学資金支援事業につ
いて
- (4) 国民健康保険制度の安定運営につ
いて
- (5) 健康づくりと平均寿命の延伸につ
いて
- 6 雇用及び移住・定住者促進施策の推進に
ついて
- 7 農林水産業の振興について
- (1) 農業の持続的発展・競争力強化につ
いて
- (2) 米政策改革について
- (3) グローバル化に対応した農業対策につ
いて
- (4) 「青天の霹靂」のブランド確立と県産
米の評価向上について
- (5) りんご生産振興対策等の推進につ
いて
- 8 社会基盤の整備促進等について
- (1) 防災・減災・老朽化対策について
- (2) 道路の整備促進及び道路整備予算の
確保について
- (3) 主要幹線道路等の整備促進について
- (4) 下北半島地域における道路交通網等
の整備について
- (5) 市町村道除排雪費の確保について
- (6) 函館〜大間フェリー航路の恒久的運
航に向けた制度の確立について
- (7) 一級河川岩木川及び馬淵川の整備促
進等について
- 9 観光客誘客対策の強化について
- 10 原子力施設の安全対策及びエネルギー政
策について
- 11 栄養教諭の配置促進について

国への重点施策提案事項等を決定

役員合同会議

本会は六月一日、青森市の県共同ビルで正副会長・理事・監事・政務調査委員長・顧問合同会議を開催した。出席者は、吉田会長はじめ役員町村長十人。

重点施策提案に係る国会議員説明会等について本会からの提案項目を次のとおり決定した。(説明会の概要は、本紙四、五頁参照。)

◎平成三十年度政府予算編成及び施策に関する提案

会議では、六月十四日に開催される本会臨時総会次第第案、同月四日に県、市長会と三者合同により実施する平成三十年度重点施策提案に係る国会議員説明会での本会からの提案事項を協議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。

- 1 地方創生の推進について
- 2 町村自治の確立及び町村財政基盤の充実・強化について
- 3 環境保全対策の推進について
- 4 医療・保健・福祉施策の強力な推進について

協議事項は次のとおり。

協議事項

- 協議事項1 平成二十九年青森県町村会臨時総会開催期日及び総会次第第案について
- 協議事項2 本会役員体制について
- 協議事項3 平成三十年度

- (1) 地域医療の確保・充実について
- (2) 総合的な子育て支援対策の推進について
- (3) 介護保険制度の円滑な運営について
- (4) 国民健康保険制度の安定運営について
- 5 栄養教諭の配置促進について
- 6 農林水産業の振興について

- (1) 農業の振興について

本会事業に対し協力を求める

コンプライアンスに取り組み

姿勢を学ぶ

町村総務課長会議

本会は五月九日、青森市のホテル青森で町村総務課長会議を開催した。出席者は町村総務担当課長等三十八人。

会議では、本会総務課から町村長健康管理研修、弔慰金等の支給、顧問弁護士など十項目、業務共済課から各種研修、町村職員採用統一試験、法令外負担金の規制など業務関係十三項目、公有建物共済「共済基準額」の見直し、災害対策費用保険など共済関係四項目、市町村税滞納整理機構から機構の概要など四項目について説明し、各業務に對

する理解と協力を求めた。また、引き続き(株)ハリリーアンドカンパニー代表取締役の中村葉志生氏を講師に迎え、「事例から学ぶ不祥事防止の考え方」と題し講演を行った。

中村氏は、人や組織が犯す罪には、犯す罪の発端(故意と過失)と行為(作為と不作為)で整理できる。この発端と行為により不祥事が生じる、と説明。上位職の課題は、自分の



不祥事防止について講演する中村講師

- (2) 林業の振興について
- (3) 水産業の振興について
- 7 社会基盤の整備促進について
- (1) 防災・減災・老朽化対策の強化について
- (2) 道路の整備等について
- (3) 治水対策について
- 8 雇用施策の充実・強化について
- 9 観光客誘客対策について
- 10 情報化施策の推進について
- 11 原子力施設等の安全対策及びエネルギー政策について

不作為や職場の不作為をいかになくしていくのかということ。故意・作為の罪への対応はもとより、不作為の罪への対応が求められる時代である。コンプライアンスは業務の質をあげる取り組みであり、公務員倫理は職員を不幸な目に遭わせないための取り組みである、などと述べた。

平成29年度事業計画・予算等を決定

各団体理事会・総会

本会に事務局を置く三つの

各団体は、六月十四日、青森市の県共同ビルで平成二十九年度理事会、総会を開催した。

各団体は、平成二十八年事業報告・収支決算、平成二十九年度事業計画・収支予算等を審議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。

また、発電関係市町村全国協議会県支部は、任期満了に伴う役員を選任を行った。各団体の理事会、総会の概要は次のとおり。



青森県広報聴協理事会の様子

本会に事務局を置く各団体役員名簿

(平成29年7月1日現在)

青森県広報聴協議会
(会員数〓県・40市町村)

会長

関 和 典(西目屋村長)

副会長

小野寺 晃 彦(青森市長)

原田 啓 一(県企画政策部長)

理事

葛 西 憲 之(弘前市長)

小林 眞(八戸市長)

高 樋 憲(黒石市長)

平 山 誠 敏(五所川原市長)

小 山 田 久(十和田市長)

宮 下 宗 一(むつ市長)

福 島 弘 芳(つがる市長)

長 尾 忠 行(平川市長)

久 慈 修 一(蓬田村長)

成 田 誠(板柳町長)

山 田 年 伸(大鰐町長)

三 村 正 太 郎(おいらせ町長)

金 澤 満 春(大間町長)

三 浦 正 名(五戸町長)

全国山村過疎地域振興
連盟 青森県支部
(会員数〓29市町村)

支部長

野 坂 充

(横浜町長) (山・過)

(山村振興部会長兼任)

副支部長

東 條 昭 彦

(鱈ヶ沢町長) (過)

久 慈 修 一

(過疎地域対策部会長兼任)

平 山 誠 敏

(五所川原市長) (過)

長 尾 忠 行

(平川市長) (山)

船 橋 茂 久

(平内町長) (過)

関 和 典

(西目屋村長) (山)

山 田 年 伸

(大鰐町長) (過)

濱 館 豊 光

(中泊町長) (山)

富 岡 宏

(風間浦村長) (山)

樋口 秀 視

(佐井村長) (過)

松 尾 和 彦

(三戸町長) (山)

三 浦 正 名

(五戸町長) (過)

※(山)は山村担当理事

※(過)は過疎担当理事

発電関係市町村全国
協議会 青森県支部
(会員数〓8市町村)

支部長

関 和 典(西目屋村長)

副支部長

吉 田 満(深浦町長)

会員

青 森 市

黒 石 市

十 和 田 市

平 川 市

鱈ヶ沢 町

三 戸 町

青森県町村会内部団体
協議会 共通 監事

種 市 一 正(三沢市長)

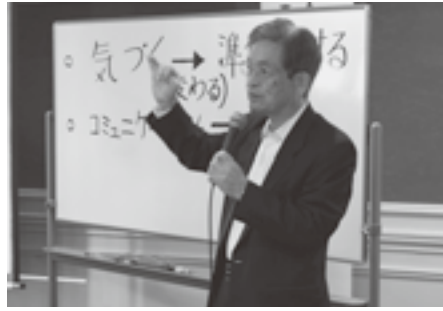
船 橋 茂 久(平内町長)

樋 口 秀 視(佐井村長)

効果的な人物評価とは

人物試験評価者講習

本会は、県市長会、県市町村振興協会との共催により、六月二十八日、青森市の青森国際ホテルで、人物試験評価者講習を開催した。出席者は市町村の人事担当管理職員等二十四人。



説明する長田講師

本会の小笠原常務理事のあいさつに続き、公益財団法人日本人試験研究センターの長田好美氏が面接試験の基礎知識や質問・評価の技法等について説明した。

長田氏は「面接試験の役割は人物面の資質を検証することであり、受験者の人柄、意欲、対人関係能力等を判定することが必要。面接時は、受験者に安心して話をさせることにより、本来の姿を把握することが重要であり、また、人物・面接が重視されてきているため、面接官の役割・責任も重みを増し、訓練する必要がある」と述べた。

中泊町長

はまだて
濱館

とよみつ
豊光 氏



任期満了に伴う中泊町長選挙は、四月九日、投票が行われ、新人の濱館豊光氏(57)が初当選を果たしました。(略歴) 県東京事務所長、県総務部参事・秘書課長

また、模擬面接試験のDVの鑑賞をしたあと、受験者の面接カードの内容を確認しながら評定項目に沿って人物像を分析し、観察・評価するポイントを学んだほか、出席者が面接官役と受験者役に分かれ、コンピテンシーを意識した質問の展開等について実習を行った。

広報写真撮影の技術を習得

広報広聴担当者研修会

本会に事務局を置く県広報広聴協議会は、本会、県市長会、県市町村振興協会との共催により、六月二十七日、青森市のラ・プラス青い森で、県市町村広報広聴担当者研修会を開催した。出席者は市町村の広報広聴担当者三十六人。研修会に先立ち、平成二十九年県広報コンクール表彰式を行い、広報紙総合の部特選の弘前市をはじめ、広報紙、写真、映像各部門で優秀な成績を修めた団体に対し表彰状を授与した。

引き続き、県広報広聴課よ

り今年度の年間重点広報計画の概要等について説明があった。



強調性のある撮り方を説明する川西氏

研修では、フォトグラファーの川西正幸氏が「広報写真の実践スキルアップ術」と題し講演した。

川西講師は、全国広報コン

本県から2作品が入賞

全国広報コンクール

日本広報協会は、五月十六日、平成二十九年全国広報コンクールの審査結果を発表し、映像部門で青森市「世界一の豪雪地帯」が入選二席に、また、広報写真(一枚写真部門)で弘前市「広報ひろさき(平成二十八年十二月一日号)」

クール写真部門の審査委員としての経験等を踏まえ、写真撮影の基礎知識を説明。被写界深度で撮影イメージを変えた迫力ある広報写真の撮り方や活用方法について講義した。また、県内自治体の広報紙に掲載された広報写真を使いクリニックを行ったほか、撮影実習では、参加者が実際に一眼レフカメラを使い、インタビュ写真や授与式等の撮影方法を例に、被写体やシーンごとの撮影方法や表現力を豊かにする撮影方法など写真撮影の技術について指導を受けた。

が入選に入賞した。

全国広報コンクールは、広報紙、ウェブサイト、広報写真、映像、広報企画の五媒体十部門を対象で、同作品は本会に事務局を置く県広報広聴協議会が今年一月に開催した県広報コンクール審査会の審査を経て、全国広報コンクールに推薦されていた。

本県推薦作品の入賞は、平成二十五年同コンクールで、映像部門において入賞して以来の快挙となった。



新郷村長

櫻井 さくらまい

雅洋 まさひろ 氏

任期満了に伴う新郷村長選挙は、五月二十一日、投票票が行われ、新人の櫻井雅洋氏(64)が初当選を果たしました。(略歴)村会計管理者兼出納室長



東北町長

蛭名 えびな

鉦治 こうじ 氏

任期満了に伴う東北町長選挙は、四月九日、投票票が行われ、新人の蛭名鉦治氏(57)が初当選を果たしました。(略歴)町副町長



七戸町長

小又 こまた

勉 つとむ 氏

任期満了に伴う七戸町長選挙は四月十一日告示され、現職の小又 勉氏(68)が無投票で三選を果たしました。(略歴)町副町長、旧天間林村長

青森県町村長等名簿

平成29年7月1日現在
町村数30町村(22町8村)

区 分		町 村 長 氏 名	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長氏名
東郡	平内町	船橋茂久	S24. 7. 17	2	31. 11. 14	山田光昭
	今別町	阿部義治	S25. 9. 18	1	29. 10. 12	
	外ヶ浜町	山崎結子	S56. 6. 21	1	33. 4. 23	宮本一男
	蓬田村	久慈修一	S25. 8. 1	1	29. 11. 8	
西郡	鯨ヶ沢町	東條昭彦	S16. 4. 15	2	29. 12. 26	佐藤 薫
	深浦町	吉田満	S28. 9. 9	3	32. 12. 20	菊池雄司
中郡	西目屋村	関和典	S42. 2. 24	3	30. 2. 25	
南郡	藤崎町	平田博幸	S32. 6. 2	2	31. 11. 19	五十嵐 晋
	大鰐町	山田年伸	S27. 3. 11	2	30. 7. 21	
	田舎館村	鈴木孝雄	S12. 2. 10	4	32. 11. 17	葛西幸男
北郡	板柳町	成田誠	S28. 3. 4	1	31. 4. 29	村上孝夫
	鶴田町	相川正光	S28. 10. 29	1	30. 8. 20	
	中泊町	濱館豊光	S34. 10. 3	1	33. 4. 23	横野彰吾
上北郡	野辺地町	中谷純逸	S24. 8. 16	2	31. 10. 26	松山英樹
	七戸町	小又勉	S24. 1. 2	4	33. 4. 23	似鳥和彦
	六戸町	吉田豊	S25. 3. 28	7	32. 1. 27	保土澤正教
	横浜町	野坂充	S26. 1. 31	4	32. 12. 11	新渡喜広
	東北町	蛭名鉦治	S34. 9. 23	1	33. 4. 23	向井正弘
	おいらせ町	三村正太郎	S24. 10. 7	5	30. 3. 25	
下北郡	六ヶ所村	戸田衛	S22. 1. 28	1	30. 7. 6	橋本 晋
	大間町	金澤満春	S25. 3. 9	4	33. 1. 18	菊池武利
	東通村	越善靖夫	S17. 1. 7	6	33. 4. 12	林 春美
	風間浦村	富岡宏	S37. 4. 27	1	33. 2. 18	
三戸郡	佐井村	樋口秀視	S26. 4. 10	1	30. 4. 26	
	三戸町	松尾和彦	S38. 5. 9	1	32. 12. 15	
	五戸町	三浦正名	S29. 1. 1	5	31. 6. 26	鳥谷部禮三郎
	田子町	山本晴美	S39. 4. 10	2	32. 1. 14	原 昌徳
	南部町	工藤祐直	S30. 5. 22	5	30. 2. 11	坂本勝二
階上町	浜谷豊美	S31. 8. 23	3	29. 12. 23	沼沢範雄	
新郷村	櫻井雅洋	S27. 5. 25	1	33. 5. 28		



人が行き交うまちをめざして

みちのく潮風トレイル等を

活用した観光戦略の推進



みちのく潮風トレイル
Michinoku Coastal Trail



県内で一番早く朝日が昇る小舟渡海岸

光のふるさとといわれている階上町は、青森県の最東南端に位置し県内で最も早く朝日が昇り、元朝参りには多くの人々が階上岳や階上灯台でご来光を拝みます。
平成二十五年五月に階上岳と階上海岸が八戸市種差海岸と共に三陸復興国立公園に指定されたことを契機として、地域資源と人を活かしたまちづくりが進められています。

みちのく潮風トレイル 階上町ルート

平成二十五年十一月「みちのく潮風トレイル」八戸市〜岩手県久慈市までの一部ルートが開通しました。
「みちのく潮風トレイル」とは環境省が東日本大震災の被災地支援を目的に進めている七つのグリーン復興プロジェクト事業のひとつで、八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの沿岸約七〇〇kmに及ぶ長距離遊歩道です。平成三

十年度に全線開通を目指しています。

階上町ルートは、三陸復興国立公園に指定された階上海岸と天然のつつじが群生し赤々と咲き乱れる階上岳を結ぶ三十三・一kmの区間で、海・里・山の魅力を体感することができます。

エンジェルさんの おもてなし

また、潮風トレイルを気持ちよく歩いていただきたいとの思いから、みちのく潮風ト

レイル沿線に位置する商店や食事処、個人の方々が「おもてなしエンジェル」となり、トイレや休憩場所を提供。さりげないおもてなしでトレイル利用者のサポートを行っています。また、階上岳や階上海岸のガイド、陶芸や農家民泊などの思い出づくりをお手伝いしています。

年間を通して多彩な イベントを開催

春の臥牛山まつり、夏のいちご祭り、秋の階上早生新そばまつり、冬のえんぶりなど四季折々のイベントに多くの観光客が訪れています。近年特に人気を集めているのが巨木・古木めぐりツアー。推定樹齢千年の「銀杏木窪の大銀杏」や推定樹齢八百五十

年の「茨島のトチノキ」など、町に点在する国内・県内最大級の二十三本の中から、毎回十本程度の巨木・古木を「階上売り込み隊」のガイドで巡るもの。力強い生命力を感じさせる巨木に触れながら全国的に珍しい巨木の郷を堪能できます。



巨木・古木めぐり

食の魅力も満喫！

三陸リアス式海岸に面し漁業が盛んな階上町では、アイナメや天然ヒラメ、真昆布や布のりなど、三陸の豊富な魚介類が水揚げされています。海と山の幸に恵まれ、数ある特産品のなかでも特に代表的なものといえば「元祖いちご煮」と「階上早生階上そば」。

町内飲食店での食べ比べも町を訪れる楽しみのひとつです。

○元祖いちご煮

ウニとアワビをぜいたくに潮汁に仕立てた「いちご煮」は、階上町を代表する郷土料理です。毎年七月下旬に開催される町最大のイベント「いちご煮祭り」には、箸が立つほど具だくさんの「元祖いちご煮」を求めて大勢の家族連れで賑わいます。

『はしかみいちご煮祭り』

は七月二十九日（土）・三十日（日）に開催されます。磯の香り、ウニの甘さ、アワビの歯ごたえのハーモニーをぜひ味わってみてください。



階上町を代表する郷土料理「元祖いちご煮」

○階上早生（はしかみわせ）

階上そば

「階上早生」は大正七年に命名され、青森県で唯一の奨励品種に採用されました。農業の活性化と地域ブランドの確立を図ることを目的に「階上」の名がついたそばを復活させ、平成二十年一月には「階上早生階上そば」を商標登録。階上そば振興委員会の厳しい基準・管理のもとで生産されています。

秋が深まる十月末に香り高い新そばが出回ります。挽きたて、打ちたて、茹でたての階上早生そばは絶品。ジェラートやシフォンケーキなど



商標登録
第5112587号

のそばスイーツや階上早生をぜいたくに使用した本格そば焼酎も好評です。

「ハマの駅」

開設に向けて

町では現在、海業支援施設「（仮称）ハマの駅」の来春オープンに向け準備を進めています。同施設はレストランや産



建設が進む「（仮称）ハマの駅」

直、加工作業所などを備えており、観光客らに漁村特有の新鮮な魚介類等を提供します。また、漁業体験学習や海洋性レクリエーションの開催など同施設を拠点とした取り組みにより八戸市・三沢市・おいらせ町の近隣市町を含めた地域全体の水産業の振興と、地域資源を活かした浜の活性化を推進することで、新規漁業就業者の確保と漁業者の所得向上を目指しています。

階上町では今後も豊富な食・観光資源を活用した取り組みを推進することで地域再生・産業振興を図っていくこととしています。

※お問い合わせは、階上町役場産業振興課までお願いします。【0178（88）2111】





問い合わせ先 外ヶ浜町役場産業観光課
TEL 0174-31-1228

外ヶ浜町の郷土芸能や海の幸が堪能できるイベントで、今年は7月16日に開催されます。ホタテ焼きや地元米粉を使った棒パンなどを無料でご提供します。

また、ステージイベントや縄文体験コーナー、地元漁協や周辺町村の物産販売も行いますのでぜひ外ヶ浜町蟹田漁港までお越しください。

外ヶ浜町港まつり

いまが旬!
そこがほま味ち
外ヶ浜町

東津軽郡



問い合わせ先 津軽白神ツアー
TEL 0172-85-3315

2017年4月30日から運行を開始した、水陸両用バス「津軽白神号」。1日5便の運行で、所要時間は70分（陸上を約35分、水上を約35分）となります。出発は物産センタービーチにしめやで大勢のお客さんで賑わっています。予約、受付は津軽白神ツアーまでお問い合わせください。

大好評！水陸両用バス
津軽白神号

いまが旬!
にしめやむら
西目屋村

中津軽郡



問い合わせ先 板柳町役場産業振興課
TEL 0172-73-2111

「りんご灯まつり」が8月9～10日の2日間、板柳町役場を主会場に開催されます。りんごの豊作と作業の安全を祈願するこの祭りのメインは、たわわに実るりんごを表している「りんご山笠」の提灯。8月10日の夜「ノレサ！ソレサ！」の掛け声で町内を練り歩きます。いろいろな催しもあります。※詳しい日程が決まり次第、町ホームページなどでお知らせします。

<http://www.town.itayanagi.aomori.jp>

2017りんご灯まつり

いまが旬!
いたやなぎまち
板柳町

北津軽郡



問い合わせ先 横浜町役場産業振興課
TEL 0175-78-2111

日本有数の菜の花畑から採れる菜の花蜂蜜は他の蜂蜜に比べとても多くのブドウ糖を含みます。そのため結晶化するスピードが早く、液状のまま瓶詰め出来るのは収穫した当日だけという貴重な非加熱の生はちみつです。即日瓶詰めによる採りたての香りもお届けします。菜の花生はちみつは道の駅よこはま他にて販売しております。

菜の花の町の
菜の花生はちみつ

いまが旬!
よこはままち
横浜町

上北郡

いまが旬!
ろくかじよむら
六ヶ所村
上北郡

一年中いつでも泳げる!
「六ヶ所村立屋内温水プール」

六ヶ所村立屋内温水プールが6月20日にオープンしました。25mプールや歩行プール、子どもプールのほかジャグジーや採暖室も完備。また、トレーニングルームでは充実した器具を利用して、有酸素運動や筋肉トレーニングなどを行うことができ、皆さんが気軽に健康増進を図れる場所となっております。

- 開館時間 10時～21時
 - 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
 - 入館料 【村内】 高校・一般 200円／
小・中学生 100円
【村外】 高校・一般 300円／
小・中学生 150円
- *未就学児、村内住居70歳以上は無料



問い合わせ先 六ヶ所村立屋内温水プール指定管理者
特定非営利活動法人 六ヶ所村体育協会
TEL 0175-73-7307

いまが旬!
ひがしあはらむら
東通村
下北郡

県内5番目の新・ご当地グルメ
「東通天然ヒラメ刺身重」デビュー!

県内でも屈指の水揚げを誇る東通村の天然ヒラメ（青森県第2位）を中心とした、県内5番目となる新・ご当地グルメ「東通天然ヒラメ刺身重」が7月1日（土）にデビューしました!

「刺身5点盛り」、「ファイヤークレム」、「特製三段重」などで地場産食材のオールスターズによるコース料理が村内3店舗でお楽しみいただけます。

東通村へお越しの際は、ぜひご賞味を!



問い合わせ先 東通ヒラメ料理推進協議会事務局
(東通村役場経営企画課内)
TEL 0175-27-2111

いまが旬!
しんきょうむら
新郷村
三戸郡

南部煎餅で生キャラメルを
サンドした懐かしく新しい味!

「飲むヨーグルト」で有名な新郷村ですが、「新郷生キャラ煎餅」はご存じでしょうか? 村の特産品である新郷黒飴と地元産の牛乳、バターを使った生キャラメルを、2枚の南部煎餅でサンド。サクサクとした南部煎餅の素朴な味と塩気に、生キャラメルの深いコクとまろやかな甘さがマッチします。

まさに「口コミ」で好評を頂いている生キャラ煎餅!ぜひご賞味ください!



問い合わせ先 (一財)新郷村ふるさと活性化公社
TEL 0178-78-2511

●お知らせとお願い

「あおり町村自治」は、会務活動状況及び災害共済諸事業の啓発事項、県市町村総合事務組合及び内部団体の活動状況のほか、町村長の紹介及び各町村の特集記事等を掲載し、3カ月に1回季刊発行しています。

本ページの「町村トピックス いまが旬!」は、各町村の時期、季節の旬の情報をPRするコーナーで、イベント、観光スポット、施設、特産品、町の話題・出来事などが満載!

各町村で、本紙への掲載希望事項等がありましたらご連絡ください。また、表紙写真や関連記事等掲載依頼の際は、ご協力をよろしくお願いたします。

● 共済契約できる自動車

1. あなたの所有する
2. あなたと同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車 ● 原動機付自転車

● 共済掛金と共済金額

用途及び車種 区分		共済掛金額（年間）			
		自家用普通・小型乗用 小型貨物車(660cc超)	自家用軽四輪乗用 貨物車(660cc以下)	自動二輪車 (125cc超)	原動機付自転車 (125cc以下)
A 型	対人賠償	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円
	対物賠償				
	自損事故傷害共済				
	限定搭乗者				
B 型	対人賠償	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円
	対物賠償				
	自損事故傷害共済				
	限定搭乗者				

※無共済等自動車傷害共済・他者運転特約も自動付帯。 ※自賠責保険と共済金の一括払も実施しています。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

町村生協の自動車共済にご加入の方のみ、車両共済(保険)に加入できます
○町村生協の自動車共済で過去3年間無事故で、新たに車両共済(保険)に加入する場合、新規契約と比較して

43%割引（9等級）からスタート！

- 一括払いでご契約の場合は、さらに **5%割引！**
- 保険料分割払（12回）も選択可能です。
- **NEW!!** 平成29年1月からロードサービスが自動付帯

いつでもご加入いただけますので下記までお問い合わせ願います。

問合せ先 全国町村職員生活協同組合青森県支部
青森県町村会業務共済課 [共済事業] TEL 017 (723) 1331



万一の事故に備えを！

自動車共済

総合賠償補償保険制度を説明

事務担当者研修会

本会は四月二十一日、青森市の県共同ビルで総合賠償補償保険事務担当者研修会を開催した。出席者は市町村の担当者三十六名。

研修会では、本会の小笠原常務理事のあいさつに続き、本保険幹事会社である損害保険ジャパン日本興亜(株)の小沢課長から「一年前、青森でも強風による被害があったが、大きな被害を伴う自然災害が多発している。賠償責任が発生し被害者と接する状況になった時は、原点に立ち返って対応いただきたい」とあいさつがあった。

引き続き全国町村会総合賠償補償保険の概要と事故処理について、同社青森支店法人支社の田中敦特命課長及び青森保険金サービス課の加藤義大副長から「賠償責任保険は、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害を支払うもの。賠償責任があるかどうかは具体的状況・事情により変わるが、予見回避が可能であったかどうかを当てはめ

て考える。車両に落雪した場合では、建物管理者のみならず、車両所有者も事故発生時の危険を予測回避する義務があり、過失相殺の対象となる。通常の事故対応を超える場合は弁護士委任も可能であり相談いただきたい。また、事故が発生した場合は、速やかに青森サービスセンターか町村会へ連絡し、事案の早期解決を図っていただきたい」と説明があった。

最後に、本会事務局が加入依頼書の記入方法や平成十八年度取扱状等を説明し、本保険制度に対する理解と協力を求めた。



あいさつする小沢課長

確かな安心を！

住宅火災共済



安い掛金で大きな補償を

●共済契約できる物件

- あなたの所有する居住用建物、または、その建物内にある動産
- あなたと同一世帯に属する親族が所有し、かつ、あなたが現に同居している建物または、その建物内にある動産

●共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は、600口で、6,000万円が限度です。

共 済 契 約 の 最 高 限 度			
区 分	口 数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円

風水雪害特約制度

風水雪害特約制度は、風水雪害による損害について、火災共済契約に任意に付加することにより共済金を支払う特約制度です。特約を付加していない場合、風災、水災又は雪災による損害は、損害額が50万円以上の場合、損害の程度に応じ給付され、全損の場合では100分の10又は450万円のいずれか低い額の給付ですが、特約に加入することにより、火災共済契約の風水雪害共済金に加算して風水雪害特約共済金を損害額の50%又は火災共済契約額の50%のいずれか少ない額を限度に支払います。（ただし、風水雪害共済金と特約共済金の支払合計額が3,000万円を超える場合、3,000万円が限度となります。）特約共済掛金は、一口10万円につき50円です。（火災共済契約と同額を特約共済金額とします。）



各種共済事業を説明

災害共済関係事業事務研修打合会

本会は六月二十一日、青森市のアップルパレス青森で災害共済関係事業事務研修打合会を開催した。出席者は市町村及び一部事務組合等の事務担当者約百人。

当されている皆様方の御理解と御協力が不可欠。今後も皆様方のご要望に応える事業としていきたい」とあいさつした。

はじめに本会の小笠原常務理事が「相互救済を原則とする共済事業の安定的な運営は、加入団体と加入者によって支えられている。事業の更なる充実強化とサービスの維持向上を図るためには、事務を担当

打合会では、全国町村会災害共済部の坂中庶務課長が共済事業の全国的な動向について説明したほか、杉山庶務課長が全国町村等職員個人年金共済事業及び全国町村職員任意共済保険について、公有物件課の照井主事が全国自治協会災害共済事業について説明した。



説明する全国町村会坂中庶務課長

また、事務局からは弔慰金事業の緊急送金について、生協火災・自動車共済事業の概要、並びに公有・生協自動車事故処理伴う事務手続き等を説明したほか、車両保険幹事会社である損害保険ジャパン青森支社より車両共済、生協特定疾病、災害対策費用保険制度の説明があった。

平内町長

ふな はし 船橋 しげ ひさ 茂久

プロフィール

中南地域県民局地域連携部長、
(財)青森県フェリー埠頭公社事務局長
現在2期目、67歳。



随想

第34話

「訪れたい」「住んでみたい」 「住み続けたい」まちづくり

平内町は、青森県のほぼ中央に位置し、陸奥湾に夏泊半島を突き出す、美しい海と山の町です。気象条件としては、六月から七月にかけてヤマセが吹いて低温が続く、冬場は積雪も多く特別豪雪地帯に指定されるなど、必ずしも気象条件に恵まれているとはいえません。

しかし、厳しい自然環境ではありませんが、美しい景観に恵まれ、浅虫・夏泊県立自然公園と夜越山森林公園を抱え、特に夏泊半島には、特別天然記念物「小湊のハクチョウおよびその渡来地」で知られる浅所海岸や、「ツバキ自生北限地帯」として天然記念物の指定を受けたヤブツバキの咲く椿山、裾野に広がる椿山海岸は「日本の渚・百選」に選ばれるなど年間を通じて観光客が絶えない風光明媚な町です。

さらに、三味線界の第一人者で津軽三味線を芸術として確固たる地位を築き、国際的にも高い評価を受けた高橋竹山氏が生まれ育った町としても知られております。



ひらないの春まつり（ホタテ拾い）

平内町はホタテ養殖を軸にした水産業が町の基幹産業であり、青森県産のホタテの約半分を水揚げする、ホタテの町です。以前はホタテを食べるところがないという多くの声が寄せられ、そのような状況が続いたため、地元の人とともに、新・ご当地グルメ開発に着手し、平成二十七年三月二十五日に「平内ホタテ活御膳」がデビューしました。デビュー以来、その味を堪能するため多くの観光客が訪れ、当初予定していた年間一万人をはるかに超える一万余食を達成しております。しかしながら、大勢の団体客

を受け入れ、特産のホタテを提供できる飲食施設がないことから、現在「仮称」ほたて広場グルメエリア整備事業により、地域経済の活性化を促進するとともに、新たな雇用の創出とホタテのブランドディングによる知名度の向上を目指して取り組みを進めております。

また、平成二十八年度から当町に在住する子育て世帯を対象に、第二子以降の保育料を無料化しておりましたが、平成二十九年四月からは、子育て世帯の経済的負担を軽減し、より子育てしやすい環境を整えるため、幼稚園・保育園・認定こども園に通う児童の保育料を完全無料化いたしました。

さらに、人口の減少を抑制し、地域の活性化と定住促進を図るため、新築住宅建設者へ建設費の一部、民間賃貸住宅に住む世帯に家賃の一部をそれぞれ補助しております。

当町の人口は一九五〇年をピークにその後は減少を続けております。

また、少子高齢化が進んだことで一九九四年を境に老年人口が年少人口を上回り、生産年齢人口についても近年は減少傾向が顕著です。

こうした深刻な人口問題は、若者や労働力の流出等による

人材不足や経済力の低下を招くなど、地域経済及び地域振興に多大な影響を及ぼします。当町が直面しているこの問題を克服し、地域経済及び地域振興の創生を成し遂げるためには、町民とともにねばり強く、停滞することなく課題解決に向け取り組むことが何よりも重要です。そのためにも若い人たちの元気が町の活力のカギです。若者の活動を支援し、一緒になって人と自然が調和した躍動感あふれる元気な町づくりに努めて参ります。

陸奥湾のホタテは遊離アミノ酸が豊富に含まれていることから、特に濃厚な甘みとうま味があるとされております。是非、平内町へお越しください。ご賞味ください。



平内ホタテ活御膳